ご寄附のお願い

「まちをつなぐ」とは、この地域の将来世代が、希望を持って本人の人生を生きてゆける可能性が少しでも高くなるように、環境を整え、状況を生み出してゆくことであります。
将来世代の可能性を広げるために、引き続き応援よろしくお願いいたします。

神山町
ふるさとチョイス

お問い合わせ　神山町役場 まちづくり戦略課
徳島県名西郡神山町神領字本野間100
Tel 088-676-1106
メール info@kamiyama.i-tokushima.jp

アートディレクション&デザイン｜株式会社エニィ　編集&発行｜神山町役場 まちづくり戦略課

神山町ふるさと納税 事業報告書

Connected to the Future, Kamiyama

可能性を感じる町 神山

2024年度の取り組み

今の神山

神山町は、人口4,594人（令和7年4月1日現在）の山あいの町です。町の中央を東西に横断する鮎喰川上中流域に農地と集落が点在し、その周囲を町域の約86%を占める山々が囲んでいます。山林は植林された杉、檜が多いものの、ミツバツツジやシャクナゲなどの自然植生群落もみられます。年平均気温は14°C前後、季節によって寒暖の差が大きく、地区によっては冬に数センチの積雪があります。また町内には、保育所2カ所、小学校2校、中学校1校、県立高校1校、高等専門学校1校があります。すべての保育所、学校が小規模である環境を活かし、子ども一人一人を大切にし、個性を伸ばす教育を実践しています。国内外からの移住者と、このまちで長年暮らしてきた人たちが互いに刺激し合って、新しいアイデアが生まれ、“やってみよう” とチャレンジする人が増えてきているのが、今の神山です。

神山町にふるさと納税をしていただいたみなさまへ

神山町へのご寄附、誠にありがとうございます。おかげさまで、2024年には460件、総額154,493,500円の寄附をいただきました。みなさまからいただいた寄附金は、お選びいただいた使い道で、住民の方々の生活の利便性を高めたり、将来を支えていく世代を育てたりするために大切に使わせていただいております。

過疎化が進む町でありながら、超高速ICT環境をきっかけに、歴史や文化に共感したアーティストやクリエイティブな人材が多く集まり、サテライトオフィスの先進地にもなっています。神山町ができて今年で70年になります。「まちをつなぐ」とは、この地域の将来世代が、希望を持って本人の人生を生きてゆける可能性が少しでも高くなるように、環境を整え、状況を生み出してゆくことであります。将来世代の可能性を広げるために、引き続き応援よろしくお願いいたします。

Kamiyama Report

01

安心して生活できるようになった

まちのクルマ Let's

充当額
543,000円

事業紹介

Summary

「まちのクルマ Let's」は、利便性の課題があった町営バスの廃止に伴い、交通空白地帯を解消するために令和5年度から運行を開始した住民向けの個別輸送型サービスです。高齢化が進む中、自家用車を使えない方の通院や買い物など、日常の移動を支える新たな足として、多くの方に利用されています。事前登録制で年齢を問わず利用可能で、乗車運賃（上限 8,000円）の85%を町が補助しており、いつでも安価に利用できます。

取り組み・できたこと

Activity

皆さまからのご寄附は、運行費の一部として活用させていただきました。令和6年度も「まちのクルマ Let's」は安定して運行を続けており、月平均1,300件以上のご利用をいただいています。対象エリアに制限がなく、タクシーと同様の感覚で利用できることから、特に高齢者や交通手段に不安を抱える方々に喜ばれており、「これで安心してこの町で暮らし続けられる」という声も届いています。こうした声を励みに、今後も利用しやすい運行体制を整えるとともに、他自治体との連携や制度改善の働きかけも行いながら、持続可能な地域交通のモデルを築いてまいります。引き続きみなさまからのご支援お待ちしています。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

皆さまの応援のおかげで、神山町は充実した公共交通制度が運営できています。引き続きご支援よろしくお願いいたします。

Kamiyama Report

02 そだてる、あじわう、つなぐ まちの食農教育

充当額
702,000円

事業紹介

Summary

2016年に設立されたフードハブ・プロジェクトの食育部門を前身とし、2022年3月より独立。子どもから大人まで幅広い世代を対象に、食べ物のそだち方、つくられ方について学ぶ機会をつくっています。特に、学校の教育課程の中で行うプログラムを「食農プログラム」と呼び、「食べものをそだてる」「身近な風景をあじわう」「地域の『たね』をつなぐ」活動を柱に、実践を積み重ねています。

取り組み・できたこと

Activity

食べ物をそだてる

子どもたちは、畑や田んぼで、季節に合うものを選んでそだてます。手をかけ目をかけた食べ物は、収穫を迎える頃には特別なものに思えてくるから不思議です。たねの状態から収穫まで、一連の流れを辿りながら農と食のつながりを体感し、食べ物との関係を育んでいきます。

身近な風景をあじわう

子どもたちは、プログラムを通して生産者や料理人など働く大人と出会い、農や食の営みに触れます。畑でそだつ姿を想像し、季節を感じられると、食事の時間はとても豊かに感じられます。農家から田畑の見方や農作物への関わり方を学んだり、自らが風景のつくり手になったりしながら、食環境への理解を深めていきます。

地域の「たね」をつなぐ

「たくさんの情報が入っている地域の『たね』がなくなることや使用を制限されることは、独自の文化が奪われること。一度奪われると、二度と取り返せない。一粒のたねから芽が出てそだっていく、それだけでワクワクする。『たね』はすごいの!」ある料理人の言葉です。わたしたちができることは、地域にある「たね」を使い、そだて、食べること。先人の知恵にならい、地域の食文化を守りそだてていきます。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

- はじめて見たごぼうのたねは、スイカみたいでした。ごぼうって、根っこなのかな。どうやってせいちょうしていくのか、たのしみです。
- わたしはほうれん草がだいすきです。そだつのがたのしみです。おいしくできたらいいな。
- わたしたちは毎日、当たり前のようにお米を食べています。つくるのは 一年くらいかかるけど、食べるのはすぐに終わってしまいます。そのつくるという大切なことが神山ではできるので幸せだなと思いました。

Kamiyama Report

03 神山すだちの魅力を全国に! ふるさと応援事業

充当額
670,000円

事業紹介

Summary

NPO法人里山みらいでは、神山町の伝統や文化、自然環境などを未来へ受け継ぐために、過密な都会と過疎の町、相反する環境の人と人とが一緒になって「お互いの暮らしを支えあう」新しい日本の姿を目指しています。
すだちの農業人材育成、生産支援、6次産業化、PRを行っています。

取り組み・できたこと

Activity

生産量日本一を誇る神山町のすだちを各地でPRするために今年も「Kamiyama sudachi award 2024」を開催しました。インスグラムを活用し、フォロワーのみなさんからの＃神山すだちの投稿が1,000件を超え、様々な “インスタ映え” 写真がアップされました。「私も食べてみたい。」「すごい!」などコメントもあり、インターネットを通じた交流が生まれました。また自社投稿も525件した事で産地情報を発信することができました。
すだち農家と料理人の共演「すだち遍路」では、地域に限定されることなく、全国162店の飲食店に参加いただきました。すだちの創作メニューを考案いただき、インスタグラムを通じて情報発信を行いました。たくさんの方にすだちの爽やかな香りや酸味を味わっていただけたのではないかと思います。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

これからも、都会と田舎をともに支える未来を作っていきたいと思います。また、すだち文化を次世代に継承するために、オーガニックや循環型農業も取り入れていきたいと考えています。インスタフォロワー数も更に増やして、たくさんの方にすだちの魅力を知っていただきたいです。

Kamiyama Report

04 神山町教育応援事業［下分保育所］

藍染めを楽しみたい
山の中を探検したい

充当額
保育所合わせて
100,000円

事業紹介

Summary

下分保育所は、1951年に認可され現在は0歳児から5歳児までの46名の子どもたちが在籍しています。保育所の下には鮎喰川が流れ、周りはすだちや梅畑に囲まれ、すぐ近くには神社やお寺があります。「丈夫でたくましい子」「命を大切にできる子」「思いやりのある子」「みんなで協力できる子」「創意工夫できる子」をめざす子ども像としています。

取り組み・できたこと

Activity

藍染め体験

下分地区に住む藍染め職人、瀧本さんと藍の生葉を使った藍染めを体験しました。徳島の伝統工芸に触れる機会と地元の職人さんを知る機会となりました。絹の巾着袋に輪ゴムを巻き、キャップの蓋を使い「どんな模様になるかな」と考えながら作業をしました。生葉をミキサーにかけて染め液をつくり、巾着を染めました。一人ひとりが自分の模様のできあがりを楽しみました。

山の活動

先達*河野さん、つなぐ公社*田中さんと一緒に、神領の創造の森で山の活動体験をしました。創造の森のなかにある芸術作品に触れたり、やまいちごを採って食べてみたり、杉の木の生える山道を歩き、自然を楽しみました。山の中での先達が作ってくれたブランコは保育園のブランコとはひと味違った楽しさがありました。

＊先達…自然の魅力と怖さ、昔のこと、遊びの楽しさを伝えてくださる地域の方々。
＊神山つなぐ公社…2016年に設立された一般社団法人。「まちを将来世代につなぐプロジェクト」に取り組む。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

● 「手や指が藍の色に染まったのが面白かった。」「水で洗うときれいなブルー。上が青で下が白の模様ができた。」それぞれの模様をみんなで見せ合いっこをしていました。
● 「山の中のブランコが面白かった。」「冬いちごを採るのが楽しかった。」結構急な山道も「疲れた。」と言う子がなく皆元気に歩いて自然を楽しみました。

Kamiyama Report

05 神山町教育応援事業［広野保育所］

職人さんや下分保育所の
お友だちと交流

充当額
保育所合わせて
100,000円

事業紹介

Summary

広野保育所には現在39名の乳幼児が通っています。近くに神山森林公園イルローザの森があり、秋には園外保育に出掛けどんぐり拾いなどをして楽しんでいます。ハロウィンでは歩いてパレードをしたり、地域の方からお菓子をいただいたり子どもたちに手を振ってくれる方もいて保育所の恒例行事になっています。

取り組み・できたこと

Activity

下分保育所との紙芝居交流会

下分保育所の友だちと同じ小学校に通う予定の友だちもいることから1年に何度か交流の機会を設けています。人間関係が固定化しないように同年齢の友だちとの関わりを通して一緒に体験する楽しさを味わい豊かな心を持つ子どもに育ってほしいと考えています。

藍染め体験

運動会に向けて何かみんなで作ったものを身につけて参加できないかと考え藍染めのバンダナを作ることにしました。
世界的にも有名な藍染め職人にご協力いただき、大きな樽いっぱいの藍の染め液をもってきてもらいました。柄を作るバンダナの絞りは各家庭で子どもと保護者が一緒に絞ってもらいました。
4・5歳児の子どもたちが中心に体験をしました。本物の藍の染め液を見るのも触るのも初めての子どもたちはドキドキの体験でした。できあがりの素晴らしさに感動しました。運動会当日は全員がバンダナをマントのようにして踊りとともに会場の皆さんに披露しました。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

● 藍染めの液は臭いニオイがして、染め液に手を浸けると冷たくて少しヌルッとしました。手や爪が青色になって爪はマニキュアみたいでした。
● バスで行ったのが楽しかったし、お友だちと一緒に観た紙芝居はおもしろかったです。

Kamiyama Report

06 神山町教育応援事業［小中学校］

まちの大人から学び、
生き方を考えるキャリア学習

充当額
500,000円

事業紹介

Summary

神山中学校では、2年生の総合的な学習「かみやまタイム」を活用し、年間を通じたキャリア学習を実施しています。生徒たちが地域の大人の生き方に触れ、自らの人生について考える機会を提供することが目的です。本年度は「神山生き方図鑑」の制作をはじめ、職場体験、生き方質問カード、立志式、振り返りの授業といった多様な活動を行いました。地域の方々との対話を重視し、生徒が自分の思いに気づき、言葉にするプロセスを大切にしています。神山町という人のつながりのあたたかな地域社会ならではの事業。多様な大人たちとの交流で、生徒たちの視野は広がっています。

取り組み・できたこと

Activity

神山生き方図鑑の制作（6月20、27日）

町内の大人計10人を学校に招いて人生観や職業観をインタビュー。一人一人の考えをまとめた「神山生き方図鑑」を制作しました。10人分を全体で共有することで、多様な選択肢・価値観があることを知りました。

職場体験（9月26日～27日）

生徒の希望に沿った事業所で2日間の職場体験を実施。農業者、IT企業、飲食店、医療機関、消防署など神山ならではの多様な事業者が受け入れ先になりました。1事業所につき原則、生徒1人が配置され、働く現場を体験。事業所の方に個別インタビューし、ここでも「生き方図鑑」を作りました。

生き方質問カード、立志作文を作成し、立志式へ（11月～12月）

生き方図鑑や職場体験などの学びから、自分自身の価値観を探るために「生き方質問カード」に回答。さらに将来への思いを綴った立志作文を作成しました。立志式では、町長をはじめ地域の大人たちを前にし、生徒たちは「人を助ける仕事がしたい」「神山の資源を活かした仕事がしたい」などしっかりと立志宣言を発表しました。

地域の大人との振り返り授業（1月16日）

立志宣言を少人数の輪の中で大人に受けとめてもらう、今年初の試みです。生徒は、お世話になった地域の大人たちと対話形式で、立志宣言を共有。大人からも「地域の未来が楽しみ」と好評でした。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

生徒の感想 ● たくさんの大人の生き方を聞いて、一人一人、考えが違っていることがわかり、自分の世界が広がった気がします。自分の将来について将来の仕事について深く考えることができました。この経験を活かしていきたい。

地域の大人の感想 ● 前向きな未来についてみんなで考え、語る姿が眩しく、たくさん元気をもらいました。生徒も、地域の大人と距離が近くなって、世界が広がったのではないかと思います。生徒のみんなのことを応援したい気持ちが強くなりました。

Kamiyama Report

07 神山町教育応援事業［城西高校神山校］

『やりたいこと×地域』で
神山町に貢献したい

充当額
100,000円

取り組み・できたこと

Activity

課題研究という授業で3年生が、神山町産のものを使って、神山町をPRすることで、神山町に貢献したいという思いで企画しました。「郷土料理を知ってもらいたい」では、神山の味を参考に試作、神農祭でそば米汁を地域の方に食べてもらいました。「スダチスイーツ」では、粟カフェさんや里山みらいさんの協力のもと、スダチの特性などを教えてもらいながら、クッキーやスクエアケーキ、スダチ風味のカルピスケーキを作りました。「神山の食材を使ったシュークリーム作り」では、神山町産の栗を使って、シュークリームを作り、神山町役場で試食会を実施しました。「造園技能検定2級と今後検定を受ける人へ」では、造園技能検定2級に挑戦し、後輩に検定の魅力を伝えました。樹木の見本園を整備することで、樹木の名前を覚えることができ、地域の憩いの場になることを願っています。このように自分たちのやってみたい！という気持ちがいっぱい詰まった取り組みを通して、神山町のことがもっと好きになり、今までお世話になった神山町に恩返しができたと感じています。また、森林女子部は、神山町産材を有効活用した商品開発に取り組み、販売や体験活動で神山町林業活性化に貢献しています。その取組を第6回徳島木育サミットで紹介し、地域と木育について発表しました。

事業紹介

Summary

地域で学び地域と育つ神山校」をテーマに、未来を拓く人づくりへ向けて、2019年に地域創生類が誕生しました。学問・技術・勤労の校訓のもと、3年間を通して学校と地域の中で多様な経験を積み、自分で物事を考え・行動する力を育みます。2年生からは、「環境デザインコース」と「食農プロデュースコース」に分かれ、これからの食・農・環境について多様な人と関わりながら実践的に学んでいます。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

● 私は、食べた人が笑顔になるのがすごく嬉しくて、料理を作るのが一番楽しいです。「神山の味」に載っている郷土料理は、食べたことないし、作ったことない料理がほとんどだったので、とても興味深かったです。

● 造園技能検定2級は学科試験のみ合格しましたが、進学先でもう一度挑戦して2級合格を目指したいです。また、先輩が造った見本園を整備する中で、このような樹木を観察できる見本園がもっと神山町にあればいいなと思いました。

Kamiyama Report

08

人間の未来を変える学校、
神山まるごと高専の挑戦

充当額
230,000,000円

神山町教育応援事業［神山まるごと高専］

事業紹介

Summary

神山まるごと高専は、2023年4月に開校した高等専門学校（高専）です。「テクノロジー × デザインで人間の未来を変える学校」をコンセプトに、「モノをつくる力で、コトを起こす人」の育成を目指し、テクノロジー × デザイン × 起業家精神をまるごと学ぶ新しい学校です。学生たちは旧神山中学校を改修した寮に住み、神山町で5年間を過ごし成長していきます。2025年4月には3期生となる新入生を加え、約120名の学生たちが神山町を舞台に学びを進めていきます。

取り組み・できたこと

Activity

開校3年目を迎え、神山町の皆さまやパートナーの方々をはじめ、多くの方々のご支援を受けながら、学生たちの主体的な活動が活発になってきています。この1年で、起業への意欲はさらに高まり、個人事業主として活動を始め、法人登記を行い会社を設立する学生も現れています。「特産品を活用したオリジナル商品の開発」や「デジタル技術を活用した地域課題解決サービス」、「フリーペーパーの作成」など、授業を通じて得た学びを活かして社会に飛び出しています。
高専祭（まるごと祭）には、地域の方々だけでなく、全国各地から約1,300名の来場者を迎え、学生・スタッフが様々な形で感謝の気持ちを伝えることができました。また、地域団体の協力を得てキッチンカーなどを用意するなど、外部の方との連携をきっかけにした取り組みにも挑戦しています。最終日にはクラウドファンディングで集めた資金を活用し、神山町内で打ち上げ花火を行い、大きな感動を呼びました。
このような地域との連携を基盤に、神山まるごと高専は着実に進化を続けています。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

- まるごと祭で神山町の皆さんにご協力いただき、古着屋を開きました。服の提供やサポートを通じて、町の皆さんの温かさをたくさん感じました！これからも感謝の気持ちを大切にして、学校生活を送りたいと思います。
- 昨年、神山町を舞台にした短編映画を制作しました。今年5月には、町の方の協力も得て「映画と森Night」という野外映画祭を開催しました。当日は、約400人の方にご参加いただき楽しんでいただけました。

Kamiyama Report

09

まちを将来世代に
つないでいくために

充当額
477,000円

まちを将来世代につなぐプロジェクト

事業紹介

Summary

神山つなぐ公社は、神山町創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト（つなプロ）」を実現するため、2016年に設立された一般社団法人です。つなプロは、少子高齢化が進む中でも、町が持続的にあり続けることを目指して、町民と役場職員が共につくり上げた、まちづくりの方針であり、公社はその実行を担う中間支援組織として、役場・住民・企業・まちに関心を寄せる人など多様な主体をつなぎ、企画・コーディネート、資源調整、情報発信などを行いながら、課題解決と将来世代への継承を支えています。

＼寄附者さまへのメッセージ・感想／

Message

神山町は、「将来世代が自分とまちに可能性が感じられる」環境をつくることを目指しています。森林や教育、地域経済など多様な領域で手を取り合い、ふるさとを誇りに思う町出身者はもちろん、関心を寄せるすべての人とつながりを絶やさず、今の神山と未来への希望を伝え続けています。

取り組み・できたこと

Activity

神山町では、「人が移り住んでくる、還ってくる、あるいは留まること」を選択できるまちを目指し、役場や神山つなぐ公社、学校、民間、地域住民など多様な主体が連携し、複数の領域で取り組みを進めています。神山らしい景観を将来へとつないでいくための「景観計画」の策定、町出身の大学生による小学生向け1Dayキャンプの実施による世代間交流の創出、商店のない地区での生活支援として、事業者等が商品を持ち寄り販売する取り組み「ちょっとわて」の開催、子育て・教育環境の見える化、防災教育を兼ねた自然体験プログラムの実施など、多義的な活動が展開されています。これらの取り組みの進捗は年2回の報告会で町内外に共有され、オンライン配信も行われています。

神山町YouTube
チャンネル「かみやまch」

まちを将来世代につなぐ
プロジェクト第2期